

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 2丁目)

事業所番号	0670700624		
法人名	株式会社コンパス		
事業所名	グループホームコスモス		
所在地	山形県鶴岡市西茅原町21-16		
自己評価作成日	令和 5年 11月 4日	開設年月日	平成 15年 5月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の誰一人コロナウイルスに感染する事なく過ごしております。そこを継続しつつ筋力が低下しないようレクリエーションに体カアップ体操等を盛り込み取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 12月 4日	評価結果決定日	令和 5年 12月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は開設当時、職員が皆で考えたものであるがコロナの影響で地域との交流はできていない。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの感染予防のため頻度はごくわずかだが地域のお祭りの時「子供神輿」がホームに来所し入居者様が楽しまれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コスモス新聞を発行し地域の皆さんに回覧見せていただき情報を提供している。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響があり、しばらく書面でのやり取りが続いていたが今年の8月より会議を開催しご意見を伺う等サービスの向上に活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いまだにコロナの影響があり電話でのやり取りが主ではあるが、介護や防災等に関して質問したりアドバイスを頂き支援につなげています。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	10年以上にわたり日に数回、ドアの開放を行っています。また、身体拘束適正化検討委員会を設け年2回の研修を実施し身体拘束をしない取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化検討委員会を設置し年2回の研修を行い虐待防止やケアの振り返りを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにも成年後見制度を利用されている方がおられ、その方々を通じ職員は社会的対応を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご家族と利用者様に十分な説明はもちろん契約時にも確認の意味で再説明し理解を頂いている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍では「サービス計画書についてご意向とご意見伺い」という書面を活用し計画更新時に送付しご家族のご意見を記入いただきサービスにつなげています。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回各ユニットで開催するホーム会議上で意見を出し合い問題解決に努めている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が前期、後期と目標を決め、取り組み評価をしています。また、管理者は職員と面談等を行い働きやすい環境づくりに努めています。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響でもつばらzoomではあるが外部研修を積極的に取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	国、県、庄内地区のGH協議会に加入しており様々な情報交換を行っております。特に庄内GH協で行っている交換実習で他事業所と情報交換を行っています。リモート研修や勉強会に参加しサービスの向上につなげています。)		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において本人の生活状況や思いを受けとめ、ご家族様のご意向を取り入れ安心して過ごして頂けるよう努めています。また、入居後もご家族様に相談しながら利用者様と信頼関係ができるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様、ご家族様の不安が軽減できるよう話し合いを持ち入所初期にはおいては担当職員を中心にきめ細かく関わり安心の確保に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の想いを傾聴し必要としている支援を見極め改善に向けた支援をご提案しています。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や作業を通じて利用者様の経験や苦労を学び利用者様の人となりを知る事で支援に生かしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に居室担当職員が毎月お手紙を送ったり、電話でご相談や情報交換を行い支援しています。また、年に数回利用者様の活動の様子を載せた「コスモス新聞」を発行しホームの様子をご理解頂いています。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身近な方々にはリモート面会を紹介し少しでも外部と関われる環境作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら利用者の中に入りお互いのコミュニケーションの橋渡しを行い支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で来訪を頂く事も出来ずお電話やお手紙を頂く事もあり退居後もご家族と築いた信頼関係の継続に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の意向を聞き取り支援しています。ケース会議や毎月の担当者のまとめに移行欄を設け実現に向けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や習慣を伺うホーム独自の「人生の歩み」という書面を利用し本人の生活歴や価値観を確認した上で負担無く共同生活に移行できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報共有を大切に毎日の申し送りとユニットミーティングで利用者様の状況を確認し、きめ細かく対応しています。また、今年度、導入したタブレットでユニット情報も共有できるようになりました。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議で担当職員の評価表を基にユニット職員で課題を洗い出し、具体的な対応を検討しています。コロナ禍では書面を利用しご家族のご意向を伺い、利用者様の聞き取りや確認を行い計画に反映しました。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の小さな変化やその日の情報はホームの申し送りノートやタブレット情報で共有しています。BPSDの症状にはケース記録あるいは別紙を用意し、より詳細に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の意向をもとに、ご家族の想いも取り入れた支援に取り組んでいます。電話希望の利用者にはご家族と相談して時間や曜日を決め対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ5類移行もコロナ前に行っていたホーム内での地域の方との交流は行えていませんが地域の夏祭り時には子供神輿を玄関先で拝見する等できる限り支援しています。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は月2回、精神科は月1回往診していただいています。それぞれ健康情報提供書を利用し医療機関への情報提供をおこなっています。専門医への紹介時にはご家族の協力を得て通院していただいています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいませんが医務委員会を中心に通院往診のスケジュール管理と各種医務研修を担っています。さらには居室担当職員が薬セットを行い職員全員で医務関係を支えています。内科、精神科の看護師とは常に情報交換ができる環境にあり指示やアドバイスを頂いています。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は介護支援専門員や居室担当者が中心となり情報交換を行っています。必要時、退院時カンファレンスに参加して退院後の適切な対応に努めています。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については契約時に説明を行い当事業所の利用にあたって条件を満たさなくなった場合にはご家族と話し合いを持ち他施設に入所申請を行なって頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医務委員会を中心として毎年「緊急時、事故発生時の対応に関する研修」を行っています。コロナ禍により心肺蘇生AED訓練は行えていませんがホーム独自の救急対応マニュアルを職員に配布し周知徹底に務めています。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍という事もあり地域との協力体制は築けていないものの法定消火器訓練年2回ホーム独自の自主防災訓練年6回他に総合防災・水害訓練を行い、レク活動では防災頭巾をかぶるなど災害に備えています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会などで事例検討会を行いいろいろな意見を出し合い対応を振り返る事でケアの改善を行いご利用者様が気持ちよく生活できるよう対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日替わりメニューを書いていたいたり食器拭き、掃き掃除のお手伝いをお願いすると「お役にたてるなら…」と喜ばれるすがたを目にします。ご利用者が笑顔になるよう歌や踊りを楽しめるよう支援しています。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースに合わせ無理強いせずその時の状況や状態に応じて体操やレク活動に参加頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えのできる人は本人に任せ、お手伝いが必要な方には季節に合った装いを支援し、散髪は居室担当職員が外部の業者に依頼し散髪の対応を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で外食ができず食べる事が楽しみになっています。お誕生日には誕生者の希望に沿った献立で特別な日をお祝いしています。また、食器拭きもお手伝いを頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タブレットで食事量と水分量を管理、確認しています。ご利用者の嚥下機能や好みに合わせ食事を提供しています。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力にあわせた口腔ケアを支援し口腔内の清潔保持に努めています。協力医の歯科往診で歯磨き指導や治療を行っています。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況の確認を行い毎朝のミーティングで情報を共有し個々に合った対応を行っています。排泄誘導は最小限に行い自発性を損なわないよう支援し誘導時や排泄の失敗があった時は自尊心やプライバシーに配慮し対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす体調不良を理解し日々、毎朝の申し送り便秘者確認を行い各ユニットでそれぞれの体調に合せ水分提供や腹部マッサージ、下剤調整などの対策を講じています。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりがゆったり入浴できるよう時間に配慮し入浴を楽しんで頂き入居者様の日程に合せ柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜間の求められる対応の違いを理解し、良かった対応を職員が共有し入居者様が安心して休息できる環境づくりをこころがけています。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員が内服薬のセットを行う事で内服薬への意識や理解を高めています。また、協力医、協力調剤と連携、相談し、適切な内服に努めています。(子)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の能力に合せ洗濯、食器拭き、お盆拭き、居室掃除等の家事活動を提供する事で役割を持っていただき職員が見守り、コミュニケーションを取りながら支援しています。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調に合わせて天気の良い日には玄関先で外気浴や季節を感じられるようドライブの支援を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望の飲み物や身内の方へのお電話代などご利用されております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にご家族様のご都合をお伺いし調整した上でお電話やリモート面会を実施しております。外出がままならない現在、お電話でご家族とお話することが大切になっていることを職員が理解し対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、日差しの調整を行い、季節に応じた折り紙で作ったディスプレイを行い季節を感じられるよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内、数か所にソファを置き利用者様が自由に利用し談笑しています。他にも利用者の動作やご性格、相性等を考慮しテーブル席を配置し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真を飾られたりテレビやラジオを置いて好きなように操作されている方などいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室に手すりを設置しています。一人ひとりの状況に合せ安全に移動できるよう配慮しています。居室内も本人と相談し動きやすい環境作りに努めています。		